



コミュニティだより



発行 登米市吉田公民館
(指定管理者 吉田コミュニティ運営協議会)

TEL: 0220-55-2124

FAX: 0220-55-4528

吉田コミュニティ運営協議会



コミュニティ運動会 10月15日開催予定

今年の凄まじいばかりの暑さ対策として、9月3日に予定していたコミュニティ運動会を10月15日に延期しました。最近になって暑さは和らいてきましたが、それでも日中は30度前後になる日が続いております。コロナ禍により3年間中止してきましたが、今年は4年ぶりの開催です。ご近所の皆さんお誘いあわせの上、ぜひご参加ください。プログラムも配布しましたのでご持参願います。

交通安全標語看板設置



佐沼地区交通安全協会吉田支部(支部長及川孝男氏)では、飲酒運転根絶のための啓発活動の一環として、吉田公民館敷地内の交差点に面した角に高さ2.7m、幅55cmの交通安全標語看板を設置しました。「軽い一杯、重い代償 飲酒運転根絶」「それでもしますか? 飲酒運転」の二枚組です。吉田地区は死亡事故ゼロ3,500日を今年度6月に達成しています。「飲んだら 乗らない 乗せない」の徹底をお願いします。

吉田女性サークル(8月30日)



岩手県陸前高田市の道の駅、気仙大工伝承館、南三陸震災伝承館と盛り沢山の移動研修会。

震災について学びながら、気仙大工伝承館では、昔ながらの家屋について詳しく説明を受け「昔の家はこうだった」「実家はこの造りと一緒だよ」等と懐かしむ声を聴きながら、お抹茶と団子に舌鼓。気仙沼市に戻り、美味しい昼食で満足一杯の一日でした。

9月13日には、ざるや、籠に一閑張り(いっかんぱり)の学習会。こちらは米山文化祭にて展示しますので、是非会場にご来場ください。

歴史講座「温故知新」(9月5日)



受講生22名が集まり移動学習会を開催しました。今回は北上川の水運がもたらした恵みをテーマにした学習会で、北上川の水運の歴史の展示が充実している北上市博物館と最も交易が盛んだった奥州藤原氏の時代へと案内してくれる平泉世界遺産ガイダンスセンター、現在の北上川を監視し、一般の人にわかりやすく広報する国土交通省北上川学習交流館あいぽーとと盛りだくさんの内容でした。

特に北上市博物館では、原寸大のひらた舟を始め展示内容がすばらしく、かつ丁寧に展示説明までしていただき、一層理解を深めることができました。江戸時代より前の北上川は浅水から登米の葛箆淵を通過して山吉田付近で迫川と合流して、現在の旧迫川を流れていたものと考えられています。奥州藤原氏の舶来品は吉田を通過して平泉に運ばれていたのです。

次回は北上川の水運で栄えた「登米(とよま)」を江戸時代、明治時代とに分けて一日かけて歩きながら学ぶ学習会を計画しています。



裏面もご覧ください ➡

家庭教育学級「じゃんぷ」(9月7日)



迫力満点!! 着ぐるみ人形劇。米山幼稚園の園児と保護者の方々がお姉さんと一緒に歌や手踊りを楽しんでから、劇団バクの「ぶんぶく茶釜」の等身大の人形劇を観劇しました。

親子一緒に見ている為か大きさに驚くどころか、一緒に劇に入っているかのように楽しく見入っていました。その姿を見て担当者はほのぼの・・・。

秋の平筒沼クリーンアップ大作戦(9月16日)



登米市環境市民会議主催の登米市クリーンアップ湖沼群の一環として秋の平筒沼クリーンアップ大作戦が午前8時30分から行われました。吉田コミュニティ運営協議会、豊里コミュニティ推進協議会、登米市社会福祉協議会米山支所、IHミートパッカー(株)から総勢48人が参加しました。平筒沼浮棧橋前駐車場から右回りと左回りの2チームに分かれ、長い火ばさみを片手に黙々とゴミ拾いをしていただき、可燃ゴミ14kg、不燃ゴミ5kgを回収しました。

今回は豊里側の駐車場付近にゴミが集中していました。ゴミの不法投棄は犯罪です。昨年度は警察に2件摘発されています。

米山町3小学校6年生交流会(9月22日)



63名の児童が、8グループに分かれ登米市レクリエーション協会の粕谷義昭氏によるアイスブレーキングやスポーツ推進委員の方々に教えていただきながらユニカル大会、紙ひこうき飛ばし大会を行いました。

最初は緊張している様子でしたが、アイスブレーキングでその緊張もなくなり、その後のユニカル大会、紙ひこうき飛ばし大会はグループ皆で協力し、とても盛り上がり学校関係なく一緒に楽しむ子供たちの様子がとても印象に残っています。昼食は、ころもがわの方々が作ったカレーライスを食べ「中学校入学前に友達が出来て良かった。」「カレーライスとても美味しかった。」などと、喜んでいました。

集落支援員を採用しました

欠員となっていました集落支援員について、令和5年10月1日付けで菅原香緒里(中津山在住)さんの採用が内定しましたのでお知らせします。正式には9月29日の理事会で承認されてからになります。前任同様よろしくお願いいたします。

集落支援員制度については、市政だより10月号で特集が組まれていましたが、地域づくりと地域課題の掘り起し、解決に向けた取り組みが主任務となります。まずは吉田地区の皆さんに知っていただき、人脈を広げながら活動してまいりますので、ご指導方よろしくお願いいたします。

館長の戯言(ざれごと) No. 23 「ホマツ」

参加できなかった、歴史講座の移動学習会で話そうとしていた「ホマツ」を今回のテーマにしました。「ホマツ」とはへそくりや臨時的な収入を意味する「帆待ち」が語源です。「帆待ち」とは江戸時代の北前船などの運賃積み荷の船乗りが風待ち(帆待ち)している間に個人的に荷物を預かったりして収入を得ていたことに因みます。全国に広まった言葉ですが各地で廃れてしまい、東北・北海道に残っているそうです。

北上川の黒沢尻の川港から石巻まで下りで3日~5日、上りで10日~15日かかったそうで、その間、川港は50もあったので、船乗りは上り舟で「ホマツカセギ」をしていたらと考えられます。しかし、米を積んだ下り舟では、米一粒自由にならず、検査が厳しく、死罪となった船頭もいたそうです。

ほまち金、ほまち田、ほまち商い、ほまちわらしなどの言葉が残っています。